



3

美容医療—危害トラブルの実態—



西山 真一郎 Nishiyama Shinichiro

医療法人社団 誠真会 西山美容・形成外科医院

日本美容外科学会評議員、公益社団法人日本美容医療協会常任理事。1968年北海道大学医学部卒業。東京女子医科大学消化器病センター外科、東京大学医学部形成外科を経て1977年開院、現職。

美容医療は、本来患者さんの悩みを解決し前向きに人生を歩んでほしいとお手伝いする診療科です。医療である以上、各施術には常に何らかの危険が伴います。医師にはそれを乗り越える知識や技術が求められ、トラブルに対処できる経験も求められます。しかし現実に誤解、経験不足、技術不足等によるトラブルが起こっています。主なものを説明します。



写真1



写真2



写真3

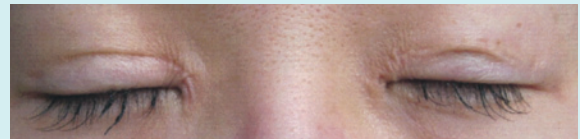


写真4



写真5

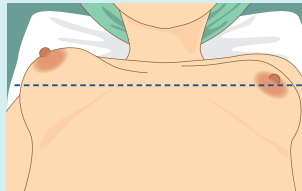


図1

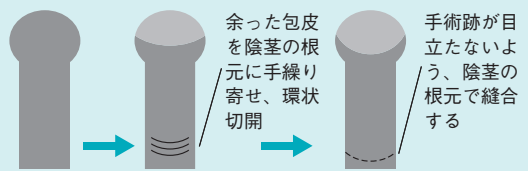


図2

火傷・色素沈着

火傷を負えば色素沈着や色素脱失が起こります。シミやホクロ取りによる火傷（レーザー）、脱毛による火傷（レーザー、絶縁針電気脱毛）等があります。火傷による色素沈着、色素脱失の多くは一時的で、時間の経過とともに薄く目立たなくなります。

写真1は絶縁針電気脱毛による皮膚内部での火傷で、冷却不足によると思われます。写真2は2カ月程経過した後の色素沈着です。これらは2年程度でほとんどきれいに治っています。

二重まぶた

美容外科では一番多い手術ですが、技術が伴わないと悲惨な状態になります。患者さんの多くは平行幅広の二重を希望されます。それにより外国人のように目を大きくしたいと思われるのでしょうか。たとえ希望だとしても言われたままに手術をすると、東洋人にもいない、まして外国人にもいない不自然な目になってしまいます。この場合、縫合固定も不自然でまったく技術不足です（写真3、4）。

「プチ整形」などと呼ばれる埋没法手術では、



糸が結膜側に出ていると角膜を傷つけることがあります。埋没糸は必ずまぶたの中、**瞼板***1と皮膚の間に潜り込ませる必要があります。

豊胸

豊胸手術は一般的にはシリコンジェルバッグ（以下、バッグ）を入れることで胸を大きくします。その他筋肉等移植する方法もあります。バッグは表面に小さな凸凹があるバッグを使うことで**拘縮***2を防ぐようにしていますが、人体にとっては異物ですから拘縮を完全になくすることはできません。拘縮が起きると硬くなり、寝たり起きたりと体位の変化があっても常にお椀を伏せたようになります（**図1**）。

乳房下縁（乳房の下のライン）で切開する場合、**剥離範囲**を間違えると**写真5**のように現実にはあり得ないところまでバッグが下がり、かたが崩れてしまいます。完全なミスといえるでしょう。乳房下縁から剥離していく場合、乳頭や乳輪の知覚障害が起きることがあります。

包茎

包茎手術は、多い皮膚を切除するか、**狭窄***3部分を含めて切除し、亀頭を出すようにします。陰茎は勃起するため、ある程度の皮膚の余裕が必要であり、皮膚を切除し過ぎてしまうと、引きつれや勃起不全を起こすことがあります。亀頭直下での縫合は、皮膚切除し過ぎる傾向が高くなりますので、縫合部がツートンカラーになりやすいのですが、少し余裕を残す手術法か、仮性包茎の場合には、根本で皮膚切除する手術法（**図2**）が、傷も目立たなく亀頭部分も生来の状態となるため良いと思われます。

注入物

ヒアルロン酸に代表される注入物は凹みに注入することで膨らまそうとするものです。このような注入物が血管の中に入ってしまった結果、皮膚の壊死や失明という大きなトラブルも報告されています。一般的なトラブルは、凹凸やまれに**発赤***4等のアレルギー反応を起こすことです。吸収されるものであれば治ってきませんが、非吸収性や吸収しづらいものは治りにくく、さまざまな組織に入り込むため、取り出すことも困難です。吸収性であればまだ比較的安全ということ。吸収性と非吸収性を混合しているものもあります。

ボトックスは、A型ボツリヌス毒素*5を使用し、筋肉を一時的に麻痺させてしわを作らないようにしたり、多汗症等にも使用されています。麻痺は3カ月くらい続き、麻痺することでしわが寄らないため、しわが深くなるのを防ぐことができます。ただし、目的の筋肉ではなく別の筋肉を麻痺させると、例えば、一時的な**眼瞼下垂**（上まぶたが垂れ下がり開きづらい状態）や**眉毛挙上**（瞳孔にまぶたのふちや皮膚が掛かると見づらいため眉毛を挙げてまぶたを挙げようとする状態）等を引き起こすことがあります。

多汗症はエクリン汗腺から過剰に発汗する状態を指します。このエクリン汗腺の機能亢進（過剰な状態）を押さえることで発汗を押さえます。効果は6～8カ月くらい続きます。

- *1 まぶたの裏側にある楕円形をした軟骨組織
- *2 生体に異物を挿入すると、必ずそのまわりに被膜（カプセル）が形成されるが、その被膜が縮小して、厚く硬くなる（拘縮する）こと。
- *3 すばまって狭くなったところ。
- *4 皮膚の一部が赤くなること。
- *5 食中毒を引き起こすボツリヌス菌が作り出す毒素。これを製剤化したものを筋肉に注入すると数日間麻痺させる効果がある。なお、「ボトックス」は製剤名で、登録商標である。

手術後、不安な症状がある場合は、迷わず医師の診察を受けましょう。手術を行った病院やクリニックに診てもらおうと同時に、他の病院の形成外科などの診察を受けましょう。もしトラブルとなった場合に重要となりますので、診断書をもっておくとよいでしょう。